

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホームいさはや ユニット2		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の木造作りで庭が広く、家庭菜園、花壇の世話や収穫、夏は花火大会、冬は餅つきを楽しんでいる。地域の行事にも参加させて頂きながら、交流を深めている。季節を感じて頂く為に、ドライブに出掛けたり、市内最大のお祭りである「のんのこ祭り」に参加して、喜びのある日々を過ごして頂けるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は畑や自然が豊かな静かな環境であり、事業所は絵本屋を改装した山小屋風の温かみのある建物である。季節を感じる堤や木立の中を散歩したり、庭で菜園で野菜を栽培することは利用者の楽しみになっている。事業所は、開設時から地域との交流を大切に、地域行事の炊き出しや神社の掃除など地域の一員として役割を担っており、地域住民との自然な交流が構築されている。介護計画書では24時間シートを活用し、利用者本位のケアが出来るようケア内容を具体化し、職員の統一ケアの手引きとなっている。理念が職員に浸透しており、支援の柱となって「笑顔」を絶やさない「家族のように」愛する支援は利用者の「安心した暮らし」に繋がっている。市で一番のグループホームになることを目標にスキルアップに取り組むなど支援の質を高め、利用者の幸せに寄り添っている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームいさはや ユニット2
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議など機会があるごとに全職員が共有し、実践につながるように働きかけている。	「自然の風・光・色を感じられる地域・環境のなかで仲間とのんびり暮らせるグループホーム」という理念の基に、4つのキーワードを「い・さ・は・や」をもじって作成し、職員にわかりやすいよう工夫している。職員は中でも、「いつまでも利用者が笑顔で暮らせるよう」実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町費を払い、自治会の一員として広報配りや回覧板等入居者と一緒に行っている。お米は地域の方から購入し、野菜など地域の方から頂く事がある。	自治会に加入し、神社や公民館の掃除、町の法事や地域の花見の炊き出しなど自治会の一員として役割を担っている。又、事業所の餅つきに地域住民が孫と一緒に参加したり、草取りをすることで駐車場を無料で貸してもらったり、野菜の差し入れがあるなど地域との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行う行事などの案内を配り、参加して頂く事がある。また、毎年春にあるお花見に招待して頂き、入居者・スタッフが参加させて頂いている。年2回の避難訓練に参加して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。各々の立場から意見交換し、情報を共有する良い機会になっている。	2ヶ月毎に規程メンバーの参加で開催している。事業所の活動報告のほか、各メンバーからの発言があり情報交換と交流の場になっている。ホーム事例を上げ、参加者よりアドバイスをを受けたり、様々な終末期事例を議題にし、サービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修で講演をして頂いたり、交流会・意見交換会でも相談に乗って頂いている。運営推進会議には、お忙しい中出席して頂き指導や情報交換を行っている。	日頃から介護保険の諸手続きや事業所の運営等で担当課に連絡しており、認知症サポーターの研修や市主催の研修会に参加している。グループホーム連絡協議会の会議に、市の職員も出席しているため交流がある。又、介護相談員を受け入れるなど市との連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないホームとして頑張ってきたが、骨折の既往歴がある入居者様が、ベッドから単独で降りられるので、ベッド柵を設置している。	身体拘束委員会を設置している。委員会は定期的に会議を行い、職員へ向け内部研修を実施している。また外部研修も受講している。慣れから生じる支援や言葉がけのゆるみを職員同士で注意し合い、拘束の無い支援に努めている。ホーム内は夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、それを会議で全スタッフが知識を共有し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待にあたる行為がなかったか全スタッフお互いが注意し合える雰囲気を作れるように努力している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を守る為、関係者と話し合いながら、制度を理解し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いた上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は、入居時に説明しホーム内にも掲示している。玄関に意見箱を設置しているが、意見は入っていない。	行政相談窓口及び意見箱の設置を入居時に家族へ説明している。事業所は広報誌や家族の訪問時や電話などで利用者の様子を伝えながら、要望を聞いている。また運営推進会議に参加する家族からの意見を汲み上げ、サービスの向上に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2～3回会議を行い必要時には、随時話し合いの場を作り提案や意見交換を行い、反映出来るようにしている。毎月、代表者へ気付いた点・提案を記入して会議にて話し合うようにしている。	職員は毎月開催の会議や申し送り時など随時、意見や提案を行っている。又、事業所内で組織する各種委員会からも全体の職員会議に企画を提案している。これまでに個別記録の方法や職員同士の声かけなど、統一ケアに向けた具体的な提案があり、検討し実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては、勤務時間に配慮し、資格手当を付与している。職員及び家族の環境を考慮し働きやすい条件を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時スタッフ会議で、ケアに対する問題点など改善しながら実施できるよう指導している。外部研修は、出来る限り交替で参加出来るよう、勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修等で同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いに行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に、御本人の言葉に耳を傾け、御本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の心配事や不安・困っている事・要望等じっくり耳を傾けるようにし、記録に残して全職員が情報を共有し、出来るだけ期待に沿うように努力している。その後も問題が生じた時は、連絡を密に行い一緒に解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人にとって、一番必要な支援が何であるかをよく見極めてから、サービス利用を家族とよく話し合っ、検討していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物や食事作り、後片付け、掃除、洗濯物干し、たたみ、畑や花壇の世話など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さな事でも楽しみを持って生活をして頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来訪された際には、本人の日頃の様子を報告したり、相談に乗っている。面会の少ない家族には、広報紙を郵送したり、電話を入れて状況を知らせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊など自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。	職員は利用者との会話の中から得た情報や、利用開始時に集めた生活歴から馴染みの関係継続を支援している。家族や友人の訪問、外出は自由に行われており、馴染みの場所や商店には、職員とドライブを兼ねて出掛けている。また、法事などは家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事での小競合いもあるが、職員が間に入って場を取り持ち他ユニットを訪問したり、ドライブや散歩に誘うなどして、お互いの関係を保てるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院のまま退去に至った入居者様には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時には、お通夜や葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉かけや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合には、ケア会議を行い毎日の介護の中で気付いたら、申し送りの中で情報を共有している。	職員は利用者一人ひとりと会話をするように、寄り添いながら日々支援に努めている。入浴中などは昔話から思いを引き出す良い機会になっている。会話困難な場合は利用者へ声掛けして、その表情から汲み取っている。その日に得た情報は、介護日誌に記録し職員は情報共有し、出来る限りその日に実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を頂いている。入居後の生活の中で本人との何気ない会話の中で、言葉を拾いセンター方式の記録に残し、情報を全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの1日の過ごし方など、把握し対応している。介護記録・特記事項のほか、受診ノートに記入し情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、家族と話し合い、ケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感・問題点の意見を聴き、把握しながら作成している。	短期3ヶ月長期6ヶ月で見直している。職員とカンファレンスを行い、現場の意見を評価に反映している。家族や利用者の要望を取り入れ、介護計画を作成し同意を得ている。日々の支援と計画の支援内容との関係が分かるようチェック表を取り入れている。ただし、チェック方法が統一されていない。	チェック表を有効活用する為に、職員間で統一した管理が出来るよう取り組むことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表を作成し、毎日チェック出来る様にしている。特記事項を広くとり、入居者様の情報を共有出来る様にして、実施やケアプランの見直しに活かせるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの担当職員の決め、個々の願いを達成できる日を目標に、実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、入居者様と一緒に散歩へ出掛けるなどして、地域の方と会えば会話などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め、定期的に受診し、家族に報告している。他の病院を受診する時は、必ず家族に報告し承諾を得るようにしている。	かかりつけ医受診は、利用者の意向に沿っており、職員が受診支援している。受診の内容は家族へ報告し、ノートに記録し職員で共有している。又、週1回訪問看護が入り、利用者の健康管理に努めている。夜間の急変時の受入れ体制も整っており、職員は周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護より健康チェックに来て頂き、気軽に相談出来る関係である。24時間体制なので入居者様の状態に変化があった場合、適切な助言と医療関係者との連絡と受診がスムーズにいくようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や研修・交流等で顔を合わせる機会が多く、普段から相談させて頂いている。一人ひとりの入居者様の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画など話し合うことにより、本グループホームへ復帰出来た入居者様も多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約する事にあたり、家族に説明を行った。入居時にも家族に説明をしているが、重度化した場合、現実として病院への転院をするまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。	重度化の対応の指針があり、契約時に家族へ説明し同意書を貰っている。状況に応じて、医師、家族との話し合いの場を随時開催している。医療行為を伴う場合は事業所として対応が厳しく、病院を紹介している。ただし、看取りに関する指針に記載している内容と現在の状況との検討が必要であり、職員との共有も課題である。	重度化と看取りについて現在、事業所として出来る支援の範囲を明文化し、職員と共有することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を全職員が受け、資格を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下避難訓練を行っている。自主訓練を行う必要があるがまだ行えていない。	年2回、消防署立会いで夜間想定避難訓練を行い、事業所の見取り図を消防署に提出している。火災時の居室の在室確認の工夫があり、訓練には近隣住民も参加している。自然災害時の備蓄もあり、マニュアルも整備されているが、職員によってはマニュアルの周知ができていない。	全職員が避難誘導を行えるように、訓練を重ねる事は災害時の利用者を安全に避難させる基本となるため、検討を期待したい。また、自然災害時のマニュアルを職員に周知徹底することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、ノックや声掛けをするようにしている。排泄・入浴・更衣・軟膏塗布などの場合、カーテンを閉めたり、居室にて行うなどプライバシーやプライドを傷つけないように、言葉掛けや対応を工夫して行っている。	利用者一人ひとりに合わせ、職員は尊厳を傷つけない言葉掛けに配慮し支援している。羞恥心に配慮し、同性介助での対応も行っている。職員は守秘義務の誓約書を提出しており、個人情報の保管場所も適切である。但し、パッドやポータブルトイレの管理に配慮が必要である。	トイレに準備している個別氏名が見えているパッド類の管理や居室のポータブルトイレの管理方法について、検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来るよう声掛けに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。一人ひとりのペースを大切にして、業務優先にならないように常に会議などで話し合いを行い、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様、一人ひとりにあった支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から入居者様と一緒に野菜の皮むき・配膳・後片付け等手伝って頂いている。	調理職員が献立し、旬の素材やホームで栽培した野菜を使用した食事を提供している。利用者も皮むきなど下準備や後かたづけ等手伝っている。誕生日や季節行事に合わせた食事を企画しており、花見は弁当を持参して、季節を感じながら食事を職員と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので、その方にあった質・量で提供している。現在、肝性脳症の入居者の方がおられ、食事療法を行っている。夏場は、特に水分量を多く摂取するように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人ひとりに合わせて歯磨き・うがいを行っている。仕上げ磨きが必要な入居者様はスタッフが行っている。定期的に歯科受診・往診を行い、口腔内の清掃・検診を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間おきのトイレ誘導を行っている。又自立している方で、リハビリパンツ等を使用している場合は、さり気無く声掛けを行い、交換を行っている。	日中はトイレでの座位排泄を支援しており、水分摂取量と共に排泄チェック表を作成している。パッドの不快感からの軽減に向け、個別に検討会を開き、支援計画に取り入れている。パッドの当て方など業者の研修を受け、適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物(バナナ・リンゴ)や野菜、ヨーグルト等を多めに取り入れた料理を提供したり、体操や散歩等で体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬等を医師・訪問看護師と相談の上調整し、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫をして頂いているが、職員の配置上、昼間に入浴して頂いている。入居者様の希望がある際は、いつでも入浴出来る様にしている。	毎日入浴準備をしており、個別に週2、3回を目安に入浴介助を行っている。入浴拒否の場合は、声掛けする職員を替えたり、時間を置くなど様々な対応で入浴できるよう支援している。職員と会話をしたり、入浴剤や柚子湯、好みの湯温など、利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、自力で居室に戻ることが出来ない入居者様には、時間や体調をみて本人の希望を聞いて居室へ誘導して休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から貰った処方薬の説明書を個別日誌に綴っており、職員全員が目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る限り対応し、ドライブや買い物・散歩など支援している。また、担当職員と1対1で入居者様のやりたい事をして頂けるように時間を確保している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・公園・コインランドリー・美容院など、積極的に誘っている。	天候や体調を見ながら、ホーム周辺を散歩している。町企画のウォーキングコースを利用者に合わせて、ホーム独自に企画し、利用者にとって外出することが楽しみとなるよう工夫している。ドライブや買い物など個別に支援したり、花見、菖蒲見学など、季節毎の企画は大勢で遠出を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している入居者様はおられず、事務所にてご家族より預かり、買い物へ出掛けの際は、好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物が届いた時はお礼の電話や、入居者様から電話の要求があった時は、電話をして頂いている。また、年賀状を入居者様と一緒に書きご家族へ出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や小物を飾り、楽しい雰囲気を出している。また、リビング内はよく光が入り、カーテンや簾などで調整している。	事務所を挟み、2階建ての2ユニットに分かれており、それぞれに季節を感じる飾付けがある。吹き抜けのリビングにはソファが置かれ、利用者が各々に寛げる空間になっている。感染対策として、消毒液の入ったモップ拭きを行っており、加湿器を設置し快適な共有空間を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様自身に座る位置を決めて頂き、自由に寛いだり、それぞれ気の合った入居者様同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた筆筒等を持ってきて頂き、出来るだけ心が落ち着くように配慮している。	利用者が、慣れ親しんで使っていた家具や作品、家族の写真など自由に持ち込むことが出来る。ベッドやマットレス使用の選択や配置など、利用者が自身で自由に活動できるような状態に合わせた工夫がある。職員が清掃や換気を行い、利用者が居室で寛げるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所・浴室・自室の貼り紙や矢印、時計・大きいカレンダーをいつも目に入る所に設置している。体力維持の為、2階の入居者様には、階段を使用して頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホームいさはや ユニット1		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の木造作りで庭が広く、家庭菜園、花壇の世話や収穫、夏は花火大会、冬は餅つきを楽しんでいる。地域の行事にも参加させて頂きながら、交流を深めている。季節を感じて頂く為に、ドライブに出掛けたり、市内最大のお祭りである「のんのこ祭り」に参加して、喜びのある日々を過ごして頂けるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議など機会があるごとに全職員が共有し、実践につながるように働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町費を払い、自治会の一員として広報配りや回覧板等入居者と一緒に行っている。お米は地域の方から購入し、野菜など地域の方から頂く事がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行う行事などの案内を配り、参加して頂く事がある。また、毎年春にあるお花見に招待して頂き、入居者・スタッフが参加させて頂いている。年2回の避難訓練に参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。各々の立場から意見交換し、情報を共有する良い機会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修で講演をして頂いたり、交流会・意見交換会でも相談に乗って頂いている。運営推進会議には、お忙しい中出席して頂き指導や情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないホームとして頑張ってきたが、骨折の既往歴がある入居者様が、ベッドから単独で降りられるので、ベッド柵を設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、それを会議で全スタッフが知識を共有し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待にあたる行為がなかったか全スタッフお互いが注意し合える雰囲気を作れるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を守る為、関係者と話し合いながら、制度を理解し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いた上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は、入居時に説明しホーム内にも掲示している。玄関に意見箱を設置しているが、意見は入っていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2～3回会議を行い必要時には、随時話し合いの場を作り提案や意見交換を行い、反映出来るようにしている。毎月、代表者へ気付いた点・提案を記入して会議にて話し合うようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては、勤務時間に配慮し、資格手当を付与している。職員及び家族の環境を考慮し働きやすい条件を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時スタッフ会議で、ケアに対する問題点など改善しながら実施できるよう指導している。外部研修は、出来る限り交替で参加出来るよう、勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修等で同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いに行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に、御本人の言葉に耳を傾け、御本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の心配事や不安・困っている事・要望等じっくり耳を傾けるようにし、記録に残して全職員が情報を共有し、出来るだけ期待に沿うように努力している。その後も問題が生じた時は、連絡を密に行い一緒に解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人にとって、一番必要な支援が何であるかをよく見極めてから、サービス利用を家族とよく話し合っ、検討していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物や食事作り、後片付け、掃除、洗濯物干し、たたみ、畑や花壇の世話など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さな事でも楽しみを持って生活をして頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来訪された際には、本人の日頃の様子を報告したり、相談に乗っている。面会の少ない家族には、広報紙を郵送したり、電話を入れて状況を知らせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊など自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事での小競合いもあるが、職員が間に入って場を取り持ち他ユニットを訪問したり、ドライブや散歩に誘うなどして、お互いの関係を保てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院のまま退去に至った入居者様には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時には、お通夜や葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉かけや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合には、ケア会議を行い毎日の介護の中で気付いたら、申し送りの中で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を頂いている。入居後の生活の中で本人との何気ない会話の中で、言葉を拾いセンター方式の記録に残し、情報を全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの1日の過ごし方など、把握し対応している。介護記録・特記事項のほか、受診ノートに記入し情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、家族と話し合い、ケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感・問題点の意見を聴き、把握しながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表を作成し、毎日チェック出来る様になっている。特記事項を広くとり、入居者様の情報を共有出来る様にして、実施やケアプランの見直しに活かせるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの担当職員の決め、個々の願いを達成できる日を目標に、実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、入居者様と一緒に散歩へ出掛けるなどして、地域の方と会えば会話などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め、定期的に受診し、家族に報告している。他の病院を受診する時は、必ず家族に報告し承諾を得るようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護より健康チェックに来て頂き、気軽に相談出来る関係である。24時間体制なので入居者様の状態に変化があった場合、適切な助言と医療関係者との連絡と受診がスムーズにいくようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や研修・交流等で顔を合わせる機会が多く、普段から相談させて頂いている。一人ひとりの入居者様の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画など話し合うことにより、本グループホームへ復帰出来た入居者様も多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約する事にあたり、家族に説明を行った。入居時にも家族に説明をしているが、重度化した場合、現実として病院への転院をするまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を全職員が受け、資格を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下避難訓練を行っている。自主訓練を行う必要があるがまだ行えていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、ノックや声掛けをするようにしている。排泄・入浴・更衣・軟膏塗布などの場合、カーテンを閉めたり、居室にて行うなどプライバシーやプライドを傷つけないように、言葉掛けや対応を工夫して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来るよう声掛けに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。一人ひとりのペースを大切にして、業務優先にならないように常に会議などで話し合いを行い、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様、一人ひとりにあった支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から入居者様と一緒に野菜の皮むき・配膳・後片付け等手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので、その方にあった質・量で提供している。現在、肝性脳症の入居者の方がおられ、食事療法を行っている。夏場は、特に水分量を多く摂取するように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人ひとりに合わせて歯磨き・うがいを行っている。仕上げ磨きが必要な入居者様はスタッフが行っている。定期的に歯科受診・往診を行い、口腔内の清掃・検診を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間おきのトイレ誘導を行っている。又自立している方で、リハビリパンツ等を使用している場合は、さり気無く声掛けを行い、交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物(バナナ・リンゴ)や野菜、ヨーグルト等を多めに取り入れた料理を提供したり、体操や散歩等で体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬等を医師・訪問看護師と相談の上調整し、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫をして頂いているが、職員の配置上、昼間に入浴して頂いている。入居者様の希望がある際は、いつでも入浴出来る様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、自力で居室に戻ることが出来ない入居者様には、時間や体調をみて本人の希望を聞いて居室へ誘導して休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から貰った処方薬の説明書を個別日誌に綴っており、職員全員が目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る限り対応し、ドライブや買い物・散歩など支援している。また、担当職員と1対1で入居者様のやりたい事をして頂けるように時間を確保している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・公園・コインランドリー・美容院など、積極的に誘っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している入居者様はおられず、事務所にてご家族より預かり、買い物へ出掛けの際は、好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物が届いた時はお礼の電話や、入居者様から電話の要求があった時は、電話をして頂いている。また、年賀状を入居者様と一緒に書きご家族へ出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や小物を飾り、楽しい雰囲気を出している。また、リビング内はよく光が入り、カーテンや簾などで調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様自身に座る位置を決めて頂き、自由に寛いだり、それぞれ気の合った入居者様同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた筆筒等を持ってきて頂き、出来るだけ心が落ち着くように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所・浴室・自室の貼り紙や矢印、時計・大きいカレンダーをいつも目に入る所に設置している。1階のスロープは体力作りに活かしており、2階の入居者様には、階段を使用させて頂いている。		